

2026
January
No. 46

KOUSAIKAI DAYORI

弘済会だより



埼玉の未来を築く更なる挑戦



埼玉県知事 大野 元裕

明けましておめでとうございます。

初めに、昨年1月に八潮市で発生した道路陥没事故でお亡くなりになられた方の御冥福をお祈りするとともに、御家族・関係者の方々にお悔やみを申し上げます。

また、地域の皆様には、多大なる御不便、御迷惑をお掛けし、心からお詫び申し上げますとともに、様々な御協力に感謝を申し上げます。

大規模下水道は上水道と異なり止めることができない上に、更新や点検・調査の手法が確立していないなど、今回の事故は多くの教訓を残しました。本事業で判明した様々な課題を国や全国に提言・発信し、未然防止対策を国と共に推進してまいります。

さて、本県は「人口減少・超少子高齢社会の到来」と「激甚化・頻発化する自然災害などへの危機対応」という2つの歴史的課題に直面しています。活力あふれる埼玉の未来を築くには、これらの課題に敢然と立ち向かう中長期的な施策を実行していくことが必要です。

例えば、企業の価格転嫁をきめ細かく支援する地域連携の取組は「埼玉モデル」として全国から高い評価を得て、41都道県に拡大しています。賃上げの正のスパイラルにつなげて、今年も本県が全国の持続的な経済構築をリードしていきます。

新しい年には「歴史的課題への挑戦」、そして「日本一暮らしやすい埼玉」の実現に向けた取組を更に前

に進めていきます。

人口減少下でも強い経済を構築するには、労働生産性の向上が不可欠です。社会全体のDXの推進や渋沢MIIXを中心としたイノベーション創出などの取組と併せ、県庁もデジタルを前提に、業務の生産性と県民サービスの向上を図ります。

「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」による持続可能なまちづくりや、医療・福祉人材の確保、サイキウラーエコノミーの推進など将来を見据えた施策を進めるとともに、県土の強靱化や「埼玉版FEMA」など危機への備えを深化させていきます。

さらに、今年は現行の「日本一暮らしやすい埼玉」5か年計画の総仕上げの年として、「こどもまんなか社会」を目指す取組をはじめ、「あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる社会」の実現を確かなものにしていきます。

今年11月には全国健康福祉祭、「ねんりんピック」を本県で初開催し、人生100年代を豊かに過ごせる社会づくりを進めます。

また、本県のいちごや梨などが全国で高い評価を得ており、今年は県育成の最も新しいお米「えみほころ」の本格生産も始まります。是非、県のおいしい農産物を御賞味ください。

今年は「午（うま）」年です。埼玉県が未来に向けて力強く前進する年となるよう皆様と共に「ワンチーム埼玉」で取り組んでまいります。

新年のごあいさつ



会長 橋本 光男

新年明けましておめでとございます。
会員の皆様におかれましては、お健やかで初春をお過ごしのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、年明けからアメリカ、次いで韓国の大統領が交替。そして秋には我が国でも憲政史上初の女性総理大臣が誕生するなど、世界的に極めて変化の大きな年となりました。

私たち弘済会も、これまで昭和63年度から37年間務めてきた宅建試験協力機関としての業務を昨年3月末をもって終了。その後はじめて迎えた10月の試験では、協力機関を引き継いだ埼玉県宅建物取引業協会（宅建協会）から業務委託を受けて、3つの試験会場（JA共済埼玉ビル、埼玉県民活動総合センター、埼玉工業大学）で試験実施を担当するという形になりました。試験当日に会場を担当された3支部（北足立、大里、埼玉葛）の皆さんをはじめご協力いただいた皆さんには、大変ご苦勞をおかけしたと思います。ここで改めて厚くお礼申し上げます。

さらに同じ10月に開催した理事会で「埼玉県に公益認定の取消申請を行って公益社団法人から一般社団法人に移行し、今後も継続して活動を実施していく」という方向性が決定されたことは、既に先日お知らせしたとおりです。

私は11月に、それまでの検討経過の説明と弘済会に対する変わらぬ支援をお願いするために大野知事をお訪ねしました。その際私からは「災害発生などで現役職員が手一杯になった際には、弘済会は職員OBとして在職時の経験を活かし協力してまいりたい」旨をお話

しました。また11月末には、支部から選出された有志の方に出席していただいて弘済会の「今後のあり方検討会議」を開催し、ご意見をお伺いしたところです。

これまで長い間弘済会事業を支えてきた宅建試験協力機関受託に伴う多額の収入は、もう見込めません。弘済会は、皆さんからお預かりした会費収入をやりくりして、その中で活動していかなければなりません。今後は、そうした状況をしっかりと踏まえて一般社団法人移行後の事業や支部のあり方などについて、さらに詰めていきたいと思えます。会員の皆様には、一層ご理解とご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

さて今年は、ねりんピック彩の国さいたま2026（「第38回全国健康福祉祭埼玉大会」）が、はじめて埼玉県内で11月7日（土）からの4日間開催されます。当「弘済会だより」にも県担当部局からご寄稿をいただいております。

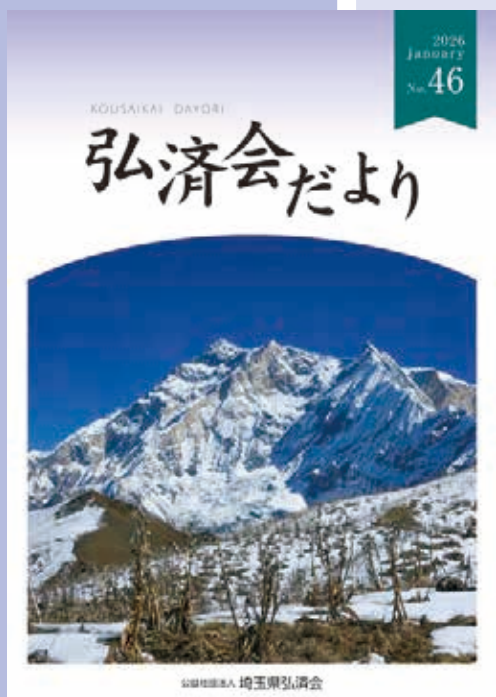
主に60歳以上を対象とするスポーツや文化種目の交流大会をはじめ、誰でも楽しめる健康や福祉に関する多彩なイベントも計画されているようです。私達も生活の身近な場面から、その成功の一助となれるようにできる限り協力し、また参加していこうではありませんか。

寒さもこれからが本番となります。皆様には、インフルエンザや新型コロナウイルスの感染予防をはじめ、健康維持にさらにご留意をいただき、私たち弘済会にとっても大きな変革の年になるであろうこの1年を、元氣にお過ごしいただきますようご祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

I N D E X

表紙

知事あいさつ	2
会長あいさつ	3
弘済会ニュース	5
寄附金のお礼	7
会員の消息	8
特集記事「ねんりんピック」	10
支部だより	14
お元気ですか	25
会員の広場・編集後記	35



表紙の写真について

題名 「アンナプルナIの雄姿」

ネパールのアンナプルナI(8,091m)の西壁を見るためツロブギン峠(4,310m)に登る。前年にアンナプルナ内院(各国からの登山者で賑わっている)に登ったが、翌年人類で初めて8,000m峰に登ったというエルゾーグ(フランス人)が通った峠を目指した。急登の山道と登山者がいないコースを独占して楽しんだ(苦しんだ?)

加村 トク江〔北足立支部〕

弘 済 会 ニ ュ ー ス

会員数 962人(12月12日現在)

News
1

令和7年度通常総会が

開催されました

令和7年5月30日、通常総会が開催されました。今年も総会後に懇談会を開催しました。総会では令和6年度の事業報告及び収支決算議案が審議され、原案のとおり決定されました。



News
2

令和7年度宅地建物取引士資格試験で3試験会場を担当しました

弘済会が埼玉県宅地建物取引業協会に協力機関を引き継いだ後、最初の試験となった令和7年度宅地建物取引士資格試験が令和7年10月19日(日)に実施されました。多くの会員の皆様のご協力をいただきJA共済埼玉ビル、埼玉県民活動総合センター、埼玉工業大学の3会場を担当して無事に試験を終了することができました。

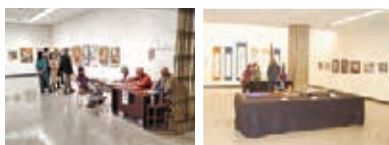
News
3

「第24回埼玉県弘済会会員文化創作展」が開催されました

第24回埼玉県弘済会会員文化創作展が、令和7年2月20日(木)から2月26日(水)に、埼玉会館第1展示室で開催されました。

書、絵画、写真や手工芸など幅広い分野から34人の力作76点の作品が展示されました。鑑賞に訪れた方は延べ422人で、皆さんゆつくりと鑑賞されました。

なお、第25回埼玉県弘済会会員文化創作展は、令和8年2月24日(火)から3月2日(月)まで、埼玉会館第1展示室(地下2階)で開催されます。



News
4

結婚相談所が業務を終了しました

県職員互助会、弘済会、埼玉りそな銀行、武蔵野銀行、埼玉縣信用金庫で構成する埼玉県結婚相談所(会長・浅賀康夫 弘済会副会長)は、平成29年2月18日に開設されて以来、弘済会会員が熱心に婚活支援に取り

News
5

「赤い羽根共同募金」活動に協力

社会福祉法人埼玉県共同募金会からの要請を受け10月1日(水)に行われました。

県内の10か所の駅頭で70人の会員が募金活動に奉仕しました。ご協力いただいた会員の皆さんには深く感謝申し上げます。

News
6

年金等の相談事業を実施

弘済会では、社会保険労務士の一般相談員が会員やご家族からの年金や相続などの相談(電話又は面談)に応じています。令和6年度には、19件の相談がありました。一般相談員は、北足立支部の浅見誠二氏です。お気軽にご相談ください。

定例の相談日は、毎月第1・第3の水曜日(午前10時～正午、午後1時～4時)となっています。

事務局連絡先…048-822-7926

今年11月7日(土)から10日(火)の4日間、



埼玉県で ねんりんピック を開催します!

ねんりんピックの愛称で親しまれている全国健康福祉祭は、60歳以上の方々を中心として、あらゆる世代が楽しむことができるスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な祭典です。

厚生労働省、開催地都道府県・政令指定都市、(一財)長寿社会開発センターが主催し、スポーツや文化種目の交流大会をはじめ、誰でも楽しめる多彩なイベントが開催されます。

第38回 全国健康福祉祭埼玉大会について

愛称

ねんりんピック彩の国さいたま2026

テーマ

咲き誇れ! 長寿と笑顔 彩の国

基本方針

我が国は、かつて経験したことのない人口減少・超少子高齢化社会の到来に直面しています。これは世界でも我が国が最初に直面している現象です。高齢者人口がピークとなる2040年に向け、「人生100年時代」を充実したものにできる社会を目指していくことが重要です。

第38回全国健康福祉祭埼玉大会は、大会に参加されるすべての方がスポーツや文化・芸術活動を楽しむとともに、埼玉県の魅力やおもてなしがいつまでも心に残る大会となるよう、次の目標を掲げて開催します。

大会目標

1 豊かな「人生100年時代」を目指す大会

高齢者をはじめ、全ての方がスポーツや文化・芸術活動を通じて生きがいや希望をもって豊かに「人生100年時代」を生きられる社会づくりへの気運を高める大会とします。

2 地域や世代を超えた交流の素晴らしさを確かめ合い、誰一人取り残さない社会を実感できる大会

高齢者をはじめ、誰もが楽しめる機会や場を創出し、全国から参加される高齢者と地域や世代を超えた交流を通じて、お互いを理解し、共に支え合う気運を高め、誰一人取り残さない社会の実現に向けた大会とします。

3 ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックのレガシーを次世代に引き継ぐ大会

スポーツへの関心や感動を共有し、本県で開催されたラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを次世代にしっかり引き継げる大会とします。

4 埼玉の魅力とおもてなしの心をワンチームで届ける大会

充実した交通網を活用し、本県のアニメ、和文化、グルメ、地酒、伝統工芸品などの多彩な地域資源を全国からお見えになる方々に広く知っていただけるよう、県全体がワンチームでホスピタリティに富んだおもてなしを行い、来訪者や県民の心に残る気持ちの良い大会とします。

交流大会 開催種目 及び 会場地

主に60歳以上の方を対象とするスポーツと文化、
計30種目の交流大会が県内24市町で開催されます。



①上尾市 弓道	②朝霞市 空手道	③小鹿野町 ライフル	④桶川市 インディアナ	⑤春日部市 卓球	⑥加須市 グラウンドゴルフ	⑦川口市 水泳/健康マージャン
⑧川越市 ダンススポーツ	⑨行田市 剣道	⑩久喜市 レクリエーションダンス	⑪熊谷市 ソフトテニス/ラグビーフットボール	⑫鴻巣市 ソフトボール	⑬越谷市 太極拳/軟式野球	
⑭さいたま市 テニス/サッカー/なぎなた/軟式野球/俳句	⑮幸手市 囲碁	⑯草加市 ボウリング	⑰秩父市 バタック			
⑱所沢市 スポーツエッセンス	⑲戸田市 マラソン	⑳新座市 マレットゴルフ	㉑深谷市 ゲートボール	㉒本庄市 ゴルフ	㉓三郷市 スポーツチャンバラ	㉔蕨市 将棋

関連イベント

年齢に関わらず、どなたでも楽しめる多彩なイベントを
県内各地で開催します。

総合開会式

- 日程** 令和8年11月7日(土)
会場 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場(熊谷市)
概要 全国からの選手や招待者、一般観覧者含め約1万5千人が参加する大会を象徴するイベント。埼玉の魅力を余すところなく伝え、県民のおもてなしの気持ちを伝える



ねんりん彩リフェスタ(仮称)

- 日程** 令和8年11月7日(土)～9日(月)
会場 ソニックシティ・鐘塚公園(さいたま市)
概要 健康・福祉・生きがいづくりに関連する様々なイベントを一体的に開催
- ふれあいニュースポーツ
ボッチャなど、子供から高齢者まで誰もが気軽に楽しめるニュースポーツの紹介・体験
 - 健康フェア
健康保持・増進に関する意識啓発に向けた、健康づくりに関する展示や体験コーナー
 - 地域文化伝承館
高齢者が経験や知識、技術を生かして取り組む地域文化の伝承活動の実演や展示を通じた披露(ステージイベントは彩の国さいたま芸術劇場で開催)
 - 展示・相談コーナー
福祉機器等の展示や紹介、相談の受付
 - ふれあい広場(11月7日は熊谷スポーツ文化公園でも開催)
埼玉の特産品やグルメ、観光といった魅力を発信する各種コーナーやステージイベントの実施

美術展

- 日程** 令和8年11月7日(土)～10日(火)
会場 埼玉県立近代美術館(さいたま市)
概要 全国の高齢者による日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の作品の展示

音楽文化祭

- 日程** 令和8年11月8日(日)
会場 所沢市民文化センター ミューズ(所沢市)
概要 県内の音楽や郷土芸能等の文化活動を行っている団体及び著名人によるステージ

講演会

- 日程** 令和8年11月8日(日)
会場 サンシティホール(越谷市)
概要 高齢者の健康や生きがいをテーマとした講演会を開催

オリジナルイベント(eスポーツ)

- 日程** 令和8年11月8日(日)
会場 埼玉県こども動物自然公園(東松山市)
概要 オリジナルイベントとしてeスポーツを開催

総合開会式

- 日程** 令和8年11月10日(火)
会場 埼玉会館大ホール(さいたま市)
概要 次期開催地の東京都へ成果を引き継ぐとともに、大会の感動や思い出を深く心に刻む、フィナーレを飾るイベント

気運醸成、県民参加の取り組みについて

大会の成功には、県全体で開催気運を盛り上げるとともに、一人でも多くの県民の皆様に参加していただくことが重要です。そのために県内各地でのPRや様々な形で県民参加の取組を行っています。

気運醸成の取り組み

カウントダウンイベント

大会の周知や開催気運の醸成を図るため、大会開催前の節目においてイベントを開催しました。

キックオフイベント

開催日 令和7年7月25日(金)

場所 県庁本庁舎南玄関前

主な内容

① 応援大使の任命

ビビる大木さん(春日部市出身)
松井咲子さん(蕨市出身)

② テーマソングの発表

はなわさん(春日部生まれ)「ニュー咲きほこれ埼玉」

③ オリジナルダンスの発表

SAMさん(さいたま市出身) 考案
「コバトン健康ダンスねりんピック彩の国
さいたま2026ヴァージョン」



応援大使の任命 ビビる大木さん、松井咲子さん



はなわさん



SAMさん

開催1年前イベント

開催日 令和7年12月6日(土)

場所 イオンレイクタウンmori

主な内容

① オープニングセレモニー

カウントダウンボード発表

はなわさんによる大会テーマソング「ニュー咲きほこれ埼玉」の披露

② トークショー テーマ「人生100年時代、楽しく健やかに」

前サッカー日本代表監督 西野朗さん(さいたま市出身)、
女子ソフトボール元日本代表監督 宇津木妙子さん(川島町出身)、
将棋女流棋士 矢内理絵子さん(行田市出身)をゲストにお迎えし、
MCとして応援大使のビビる大木さん・松井咲子さんも交えた
トークショーを実施

③ 競技種目体験

大会で実施される競技種目の体験会を実施



カウントダウンボード発表の様子



トークショーの様子



競技種目体験(空手道、スポーツチャンバラ)の様子

広報キャラバン隊

大会を広くPRするため、キックオフイベントに
合わせ「広報キャラバン隊」を結成しました。コバ
トンとさいたまっちもメンバーとして、ねりんピ
ックのラッピングカーで県内各地をまわり、クイズや
オリジナルグッズの配布など、大会をPRしています。
活動予定は特設ホームページで公開しています。



キャラバン隊の
活動予定はこちら



県民参加の取り組み

大会ボランティア

1月6日から5月31日まで、大会の運営に御協力いただくボランティアを募集しています。活動内容は総合開会式での選手団の受付や案内、関連イベントの運営補助など、埼玉県内に在住・在勤・在学で平成23年4月1日以前に生まれた方が対象です。活動に際しては研修を実施しますので、ボランティア経験がない方でも安心してご参加いただけます。ぜひ特設ホームページからご応募ください。



詳細はこちら



岐阜大会ボランティアの様子(写真提供:岐阜県)

環境美化・声かけ運動

埼玉の魅力とホスピタリティに富むおもてなしの心を届けることで、全国からの来場者や県民の心にいつまでも残る大会とするため、県民参加による環境美化活動や大会期間中の選手等への声掛け運動を実施する予定です。

詳細は決まり次第特設ホームページに掲載いたします。



鳥取大会での環境美化活動の様子

大会メダルデザインの募集

令和7年9月1日から11月7日にかけて、選手等に贈呈するメダル・楯のデザインを募集しました。テーマは健康・生きがい・長寿といった大会の目的や、埼玉が誇る豊かな自然や歴史、文化など多彩な魅力の「埼玉らしさ」。デザインの発表は2月頃の予定です。



鳥取大会のメダル

協賛・寄附

多くの方々の協力と参加により、大会に参加されるすべての方がスポーツや文化・芸術活動を楽しみ、かつ埼玉県の魅力やおもてなしがいつまでも心に残る大会となるよう、大会の開催趣旨に賛同をいただける皆さまからの協賛・寄附を受け付けております。

**ねんりんピック彩の国さいたま2026実行委員会事務局
(埼玉県福祉部ねんりんピック推進課内)**

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL 048-830-3220

特設
ホームページ
はこちら➡



うちの支部自慢

支部 だより

北足立支部

令和6年度事業報告・講演会・ 新春懇親会の開催

令和7年1月21日(火)午前10時から、さいたま共済会館で支部会員40人が出席し、事業報告が行われました。講演会では、特殊詐欺被害防止をワークショップ形式で学んだ後、懇親会では内野陽三様をはじめとする「浦和ギターアンサンブル」によるギター演奏で大いに盛り上がりしました。



令和7年度通常総会の開催

令和7年5月14日(水)午前10時から、さいたま共済会館で、支部会員39人が出席し開催されました(議案は原案どおり承認)。総会終了後は「映写会」に移り、県広報映像「さいたま・映像が記録した姿とその時代」を観賞し、発展著しい当時の姿を振り返りました。懇親会では和気あいあいの中で楽しいひと時を過ごしました。

「将来構想検討委員会」の開催

令和7年9月1日(月)、県弘済会本部及び各支部の動向や意向を踏まえ、事業の見直しや新たな事業展開を検討するため立ち上げました。

地域支援事業の実施

道路美化活動に感謝状

吹上班 柴田 雅幸

「継続は力なり」。1年に5回の小さな社会奉仕活動ですが、その日に都合がつく班の仲間と17年間続けて来ました。雑多な廃棄物収集の成果はさることながら、一所に集まって安否の確認や談笑できる機会になってきました。活動をしていると、道路沿いの店主や通りがかりの人から、「ありがとう、ご苦労様

です」との声をいただきます。

埼玉県北本県土整備事務所長からの感謝状には、「多年にわたって活動を続けて下さっておりますことに、心から厚く御礼申し上げます。」とあります。

同事務所、鴻巣市と吹上班で彩の国ロードサポート制度に関する確認により美化活動を始めた諸先輩の功績を思いつつ、吹上班の仲間の活動が続きます。



第13回 川の国応援団

鴨川左岸河川美化活動の実施

さくら班 権田 富久

令和7年10月23日(木)午前10時から桜区役所西側、鴨川左岸、「中土手橋」諏訪前橋間、約900mの間の河川美化活動を実施しました。さくら班の「河川美化活動」は、平成25年に埼玉県とさいたま市で協定を結び、「川の国応援団、鴨川河川美化活動団体」として登録され、現在に至っております。

当日は、爽やかな秋空の下、好天に恵まれ、今回もさいたま県土整備事

務所の協力の下、「さくら班」会員6人と支部役員5人の協力を得て合計11人で河川美化活動を実施しました。

当地は、

鴨川沿いの散策コースとしても利用者が多く、今回も当日のスケジュールを説明した後、早速散乱している空き缶、ペットボトル、家庭ゴミ、など収集活動を行うとともに、久しぶりの会員との談笑に花が咲き、有意義なひと時を過ごすことが出来ました。

終了後、

区役所のロビーで休憩し、次年度に向けての反省点等を話し合い、12時前に解散となりました。



■支部だより

北本自然観察公園

ボランティア活動の終了について

北本班 高岡 輝夫

例年5月と12月の2回、北足立支部と北本班合同で公園美化活動を実施していましたが、会員の高齢化や参加者の減少等により、本事業を終了することになりました。

特に会員の皆様におかれましては、永年にわたり本事業の推進についてご尽力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

施設見学会(バス利用)の開催

令和7年2月6日(木)、バス利用による施設見学会が4年ぶりに催されました。キューピー五霞工場及び渋沢栄一記念館の見学や、バスの中でのジャンケン大会、森田浅治様のハーモニカ演奏など楽しいバス旅行となりました。

平林寺史跡巡り(徒歩)の実施

令和5年度から始まった「史跡巡り」第3弾は、令和7年5月22日(木)に新座市の名刹、平林寺で開催されました。

当日は、境内の野火止用水、野火止塚、知恵伊豆と呼ばれた松平伊豆守信綱一族の約3000坪の廟所などを散策しました。

その後、「睡足軒」で茶席を設け、会員によるお点前で抹茶と和菓子を美味しくいただき、楽しい充実した史跡巡りとなりました。



赤い羽根共同募金奉仕活動

令和7年10月1日(水)、午前8時から、「浦和駅東口パルコ前」において開催され、当支部から7人の役員が参加しました。

当日の駅前広場は、通勤・通学の皆さんで大変混雑しておりました。また、会場には各団体の皆さんや地元の高校生など多くの協力者が集結し、募金活動に熱心に取り組んでおりました。



令和7年度宅建試験の実施

令和7年10月19日(日)、宅建試験が実施されました。

当支部は、JA共済埼玉ビル会場を担当、受験者数は613人でした。関係者の皆様のご協力のもと滞りなく終了しました。



現役職場訪問(第1弾)

訪問者 柴田 雅幸
本橋 弘

現役時代に勤務した職場訪問の初企画は、昭和50年に開設された「埼玉県立がんセンター」です。

もはや不治の病ではなく、治る病気となった「がん」。中野副局長様から、運営形態、病院の理念、職員数、職員の働きがいなどをお聞きしました。総勢約1500人の地方独立行政法人は独立採算制、「唯命を惜しむ」の理念のもと働きがいを見つけて日夜頑張っています。

待合スペースで患者さんがご家族と明るい表情で談笑されている

のを拝見し帰途につきました。お忙しい中、中野副局長様をはじめご対応いただいた皆様ありがとうございます。

支部の歴史を紡いできました
―北足立かわら版―

北足立かわら版編集委員会

平成元年2月に発行された「創刊号」は、全4ページが手書きでした。各号、会員から思い思いの原稿が紙面を埋め尽くし、波乱万丈の生い立ちや日々の生活雑感、退職後の消息など、貴重な情報交換の用を果たしてきました。

一方で原稿集めの苦労は今昔変わらないうち、毎号、挿絵・書・絵画など編集者の工夫が随所にちりばめられています。

この35年の間、かわら版は北足立支部の歴史を語り続けてきました。

※次号は今年5月に発行します。



人間支部

そば打ち体験教室

令和6年12月12日(木)に川越市農業ふれあいセンターで、令和7年1月15日(水)に坂戸市立大家公民館で「そば打ち体験教室」を開催しました。

川越市会場では11人、坂戸市会場では7人に参加いただきました。そのうちそば打ちに初めて挑戦した方が3人でした。

そば打ち名人2人から濃密な指導を受けることができ、充実した体験ができた大変好評でした。

そばは、打ち方・切り方・ゆで方と同じ粉と同じ水を使っているのに食感、のど越しはまちまちです。理屈はともかくその人の個性が現れるようです。自分で打ったそば



は、その人にとって一番「うまい」ものです。

支部通常総会の開催

令和7年度入間支部総会を5月24日(土)に川越市内の東上パールビルディングで午後2時から会員32人の出席をいただき開催しました。

はじめに来

賓としてご出席いただきました埼玉県川越比企地域振興センター所長秋山純様、埼玉県弘済会会長橋本光男様にご挨拶を頂きました。続いて議事に入り、慎重審議の結果、原案通り承認されました。総会終了後、同会場で懇親会を開催し、和気あいあい、楽しい時間を過ごして、終了となりました。



入間ゴルフ愛好会の活動について

入間支部では、ゴルフを楽しむ会員の方々が「入間ゴルフ愛好会」に参加しています。

愛好会ではコンペと練習会をセットにして、コンペは吉見ゴルフ

場で、年4回(4月、6月、9月、11月)、毎回2〜3組で開催しています。

練習会はコンペの前の週に毛呂山町のリンクスゴルフクラブで実施し、レッスンプロの資格を持つ会員の方に様々なアドバイスを頂いています。

参加者の皆さんの目的は、腕前の維持・向上、健康増進、人との交流などひとそれぞれだと思いますが、和気あいあいと元気にゴルフを楽しんでいます。

このゴルフ会は「愛好会」と称していますが、気軽にスポットでの参加も大歓迎です。また、入間支部以外の弘済会の会員の方、弘済会に加入していない方の参加もウエルカムです。

愛好会では、幹事の独断ではありませんが、「後期高齢者は85歳から」をモットーにゴルフを楽しんでいきたいと思っています。



美しい森をつくる会の活動

当会の活動は、坂戸市城山地区で年3回、6月、11月に下草刈り、2月に間伐を行っています。

その第1回目の下草刈りを6月26日に行いました。前々日の天気予報で台風が近づき、当日の天候が危ぶまれましたが、雨雲レーダーから午前中は曇りと予想されたので、実施することができました。場所は、前年に引き続き箇所。笹、篠、灌木類を大鎌と刈払機で刈りました。参加者は、総勢13人。県川越農林振興センター林業部職員の方から指導をいただき、坂戸市職員、市内ボランティアの方にも参加していただきました。

いつものように、作業の安全を期して、大鎌の使用について、注意事項を確認し、作業に着手。10時過ぎから始めまして、外気温33度の猛暑のため、水分補給に長めの休憩時間をとり再開。12時前に終了し、林内がすっきりと明るくなりました。



12月16

日に近くの坂戸市立城山学園の課外授業で当会の活動を紹介することが決まっていたので、第2回目の11月は伐倒する木の選木や退避場所を決めたほか、笹や灌木を除去するなど会場づくりを行いました。(11月13日・20日・27日)

赤い羽根共同募金街頭活動

10月1日(水)に川越駅と飯能駅において、赤い羽根共同募金の街頭活動を行いました。川越駅では、9時30分から10時30分まで、川越・坂戸地区会員5人及び途中から川越市長の参加により募金の呼びかけを行いました。人通りも多く、多くの方々に活動を知っていただく機会となりました。特に年配の方々が積極的に募金活動に協力してくださり、地域の温かい支援の心を感じることができました。

所沢・飯能地区では、街頭募金活動を年2回(赤い羽根共同募金、歳末たすけ



あい共同募金)飯能駅頭において行っております。本年度の赤い羽根共同募金活動は、埼玉県共同募金会飯能市支会にご協力いただき、飯能駅北口において、大川学園の高校生とともに実施いたしました。例年会員6人前後で実施しておりますが、日程調整が難しく2人の参加でしたが、4,356円の浄財をいただきました。多くの皆様のご協力に感謝申し上げます。12月1日には、歳末助け合い運動も始まりますので、引き続き微力ですが活動を行ってまいります。

比企支部

施設見学(生涯学習事業)

令和6年11月21日、栃木県足尾銅山へ生涯学習事業として施設見学を実施しました。参加者は12人でした。

東松山を出発し、群馬県みどり市大間々から「わたらせ渓谷鉄道」に乗車し、車窓からの紅葉を楽しみました。そして、国内最大の坑内見学ができる足尾銅山では人形で再現された坑夫たちが約400年の歴史を語りかけてきました。

足尾銅山は江戸時代初期に採掘がはじめられ慶安元年

(1648年)

には徳川幕府の御用銅山となりました。産出された銅は江戸城、芝の増上寺、日光東照宮などの銅瓦に用いられ、長崎から海外にも輸出されました。しかし、江戸時代末期になると産出量は低下し、廃山同然となりました。明治10年古河市兵衛が銅山を買収し、近代的な鉱源開発を行い産出量が急激に増加し、また精錬技術も近代化して高品質の精銅が製造され東洋一の銅山へと成長しました。



しかし、重金属を含んだ排水による下流の水質汚染や農地の土壌汚染の公害問題が発生し、田中正造が運動を起こした「足尾鉾毒事件」として広く知られるところとなりました。そこで明治政府は古河に技術改良工事を命じ日本の公害対策の先駆けとなり、環境負荷低減技術は昭和48年の閉山まで取り組まれました。会員にとって、日本の近代化、公害対策の原点を学ぶ生

涯学習の貴重な機会となりました。

セミナー事業(親睦事業)

令和7年1月16日、セミナー及び情報交換会を吉見町において「高坂彫刻プロムナードについて」をテーマに開催しました。参加者は14人でした。

講師には東松山きらめき市民大学高田博厚研究クラブ代表の渡邊和恵先生をお招きしました。



東松山市の東武東上線高坂駅から街路に沿って約1kmにわたって連なる彫刻群が今回のテーマ「高坂彫刻プロムナード」です。そこに並ぶ32体の作品は、戦前からヨーロッパで暮らし、世界の感性と想像力を身に着けた芸術家高田博厚の手によるものです。



なぜそんな作家の作品がここにあるのか?どんな作家なのか?高田博厚に魅せられた講師から、その人とな

りや東松山とのかかわりなど深みのあるお話を聴くことができました。

高田博厚は明治33年に石川県に生まれ福井の中学卒業後上京、高村光太郎と出会い芸術活動に入った。

昭和6年単身フランスに渡り、スイスのノーベル賞作家ロマン・ロランと交流、創作活動を行った。大戦後は日仏交流に尽力し昭和32年に帰国、鎌倉のアトリエで制作に専念した。

東松山市とのかかわりは、元市教育長の田口弘氏が高田博厚と親交のあった柳田知常(国文学者・俳人)に師事していたことから昭和49年に高田と出会ったことから始まる。昭和55年に東松山市中央公民館(現松山市民活動センター)において高田博厚彫刻展・講演会を開催し、親交を深めた。そのころ東松山市では高坂駅西口土地区画整理事業を実施しており、事業の完了に際し田口氏が「一流作家の作品で飾る彫刻通りが実現できれば、全国に誇れる」と提言し、田口氏は高田に話を持ち掛け、高田は応じた。昭和61年、62年、平成元年、平成6年と4か年かけて計32体が設置され高坂彫刻プロムナードが完成した。彫刻の台座には作者の短文が添えられ、作品に対する想いも感じられる。マハトマ・ガンジーや新渡戸稲造、宮沢賢治などの作品が並び、多

くの市民、大東文化大学、東京電機大学に通う学生、県立こども動物自然公園に向かう家族連れなどに親しまれています。

道路清掃活動(地域支援事業)

第1回を6月20日(参加者11人)、第2回を11月7日(参加者10人)、東武東上線高坂駅西口から県立こども動物自然公園までの2km道路(県道含む)の清掃活動を実施しました。

この事業は比企支部全会員に呼びかけ、令和元年から春と秋の年2回継続的に行っています。

東松山県土整備事務所の協力をいただきトンガやゴミ袋をお借りして2組に分かれて歩道のゴミ、空き缶を拾い集めます。6月は梅雨の中休み、33度の猛暑の中で熱中症に気を付けながらの活動でした。また11月は沿道に落ち葉が堆積していました。すべて片づけるのは大変ですが、たばこの吸い殻や菓子、の空き袋、ペットボトルなど参加会員が熱心に拾い集めました。

道路清掃活動を通して、地元



環境を整備し、県立こども動物自然公園を訪れる人々を歓迎し地域に少しでも貢献できればと思っています。

赤い羽根共同募金活動(地域支援事業)

令和7年10月1日、東武東上線東松山駅頭にて会員10人が参加して赤い羽根募金活動を行いました。朝9時から1時間の活動でした。東松山市社会福祉協議会と連携し、たすき、募金箱等をお借りして、駅を利用する市民に声掛けを行い募金に協力をお願いしました。

今年は、水曜日の午前中、通勤通学の時間帯を過ぎ人出はまばらでした。それでも快く応じてくださった方々からは、「今、本当に生活が苦しい人が身近にいます。自分も孤児だったので寄付する側になって募金の人と話ができてよかった。」との言葉をいただきました。また社協の担当者から「募金額は少なくとも呼びかけることでこの地道な活動が認知されることとが大切」との助言もいただきました。弘済会のつなげる活動が価値があること再認識しました。

なお、この活動は、11月20日に埼玉会館において開催された令和7年度埼玉県社会福祉大会に

おいて知事表彰を受賞しました。

長年にわたる活動が評価され、今後の会員の活動に励みになります。また関係者の皆様のご支援ご協力に感謝申し上げます。



秩父支部

地域支援事業

秩父支部では、地域支援事業として「休耕地を活用したニンニクづくり」が5年目に入りました。11月中旬に青森県産のホワイト六片の種(Mサイズ)を片ずつにし、マルチを利用して植え付けます。この時、土づくりとして牛糞を撒きニンニク専用の肥料を使用します。植え付け後草取りを2回実施します。

6月中旬に葉が黄色く枯れてきたら収穫です。「まんのう」を使用し掘り出します。ニンニクの根を切り落とし、表面の皮をむき、茎を適当な長さで切ります。複数個のニンニクの束を

■支部だより

つくり、会員の廃屋の2階で2週間ほど乾燥させます。

次に会員が集まるのは、ニンニクを製品化する時です。ニンニクの茎を切り落とし、大、中及び売り物とならないものに分けます。約200グラムをネット詰めし、製品を作成します。

また令和4年度から会員が埼玉県食品衛生協会の講習を受け、食品衛生責任者の資格を取得し、保健所に黒ニンニクの製造・販売届を提出した上、現在黒ニンニク専用釜2基で黒ニンニクを作っており、1回の製造に9日間かかりま

す。製品化した生ニン



製品化作業(話に花が咲きます)



ニンニクの収穫作業



ニンニクの植え付け作業

ニンクと黒ニンニクを尾田蒔農協農産物直売所及び皆野農協農産物直売所に出荷したところ評判も良く、売れ行きは極めて順調です。



黒ニンニク



生ニンニク

今年度も11月に昨年と同じ量を植え付けました。会員皆が今年以上の売上があることを期待し、作業を行っております。

なお、ニンニクの売上金は、例年通り日本赤十字社に寄付することとしています。

生涯学習事業

令和7年6月28日、支部総会に先立ち秩父地域で昭和48年から活動している『映像クラブ秩父』によるアマチュアビデオ映像作家による作品の出張上映会を開催しました。

今回上映していただいたものは、年老いた大樹の四季折々の取

材記録「秩父地方の大樹」、昭和61年に復活した三層の笠の下郷笠鉾の記録「秩父夜祭り」の記録、平成26年の大雪の記録「ドカ雪物語」など秩父の自然や民俗、歴史などに関する作品で約10分の短編7本でした。いずれも力作で興味深く鑑賞させていただきました。



平成26年の大雪映像

赤い羽根共同募金活動

令和7年10月1日、11人が参加し西武秩父駅頭に立ち、朝の7時から8時まで赤い羽根共同募金活動を行いました。



「ありがとうございます」



早朝からお疲れさまでした

そうでしたが多くの方からご協力を頂きました。

児玉支部

令和7年度支部通常総会及び役員会の開催

令和7年度児玉支部総会が令和7年5月20日(火)上里町内の(有)小菊で行われました。出席者は15人でした。議題は令和6年度事業報告及び収支決算、令和7年度事業計画案及び予算案並びに令和7年度児玉支部役員案ついて審議が行われ、原案のとおり承認されました。

また、令和7年度宅建試験について支部担当者から報告をいただきました。

次に令和7年7月25日(金)に支部役員会が総会と同じ会場で行われ、出席者は13人でした。議題は令和7年度宅建試験並びに喜寿・米寿該当者表敬及び物故



者慰霊訪問、赤い羽根街頭募金、そば打ち体験教室、児玉支部研修会などについて審議が行われました。

「ホタルの里」の清掃ボランティア活動について

平成25年に始めたボランティア活動も13年目となりました。今年の活動人数は11人でした。

作業は例年通り上里町の「みちくさの道」(御陣場川廃川敷)の除草で5月から9月までの第2日曜日から朝に行いました。

今年も猛

暑日続きで作業は大変でした。ホタルの発生は順調でした。このホタルの里は個人で自由に観察できるほか、6月に公民館主催の小学生対象の親子ホタル教室が、7月にはホタルの放虫会及び観賞会が実施されるなど自然学習の場として



利用されています。今年の観賞会は7月12日でした。
また、秋には彼岸花の観察を楽しむこともできます。

赤い羽根共同募金活動の実施

今年も例年のとおり10月1日(水)に午前7時からJR本庄駅前で行った赤い羽根街頭募金活動

を行いました。参加者は10人で、南口と北口に分かれて通行の妨げにならない場所で活動しました。



第10回そば打ち体験教室

令和7年10月24日(金)上里町七本木公民館でそば打ち体験教室を行いました。

支部の活性化事業として始められ、10回目となりました。麺打ちの道具や蕎麦粉など



を持ちこみ、講師を会員のボランティアにお願いし、美味しいそばを沢山頂きました。参加者は11人でした。

令和6年度宅建試験反省会兼研修旅行

令和6年11月29日(金)から30日(土)の日程で研修旅行を実施しました。行先は長野県湯田中温泉で、途中、善光寺、中山晋平記念館、おふせミュージアム、真田邸、松代城址などに立ち寄りしました。参加者は14人でした。



大里支部

昭和51年(1976年)、大里、熊谷地区の県庁を退職した諸先輩たちは、在職中の経験と知識を地域に役立てたいと思い(仮称)大里、熊谷会を立ち上げました。以来、半世紀、地域に根を下ろし、様々な活動を行ってきましたが2019年からコロナ禍を境に会員が減少し始

め、大里支部の会員数は、181人となりましたが、様々な事業に元気に参加されています。

令和7年度の支部事業では、令和6年度まで続いた施設見学会は、参加者の高齢化も進み予定人数が見込めないことから、中止となりましたが、赤い羽根共同募金活動、熊谷スポーツ文化公園の植栽管理、彩華園での包布活動及び野菜講習会、ゴルフ大会、グラウンドゴルフ、楽しい歌声は、実施されました。

大里支部の活動報告

令和7年度支部総会及び講演会

令和7年度通常総会

開催日 令和7年5月22日
場所 熊谷文化創造館
出席者 87人

弘済会会長及び埼玉県北部地域振興センター所長のご臨席を賜り、支部総会が開催されました。

議事では、報告事項として令和6年度事業報告・決算、令和7年度事業計画・予算及び支部ボランティア活動について承認



総会

されました。

総会終了後の講演会では、昨今の米の価格高騰など身近な問題として関心の高い「米」をテーマに、「限界寒冷地での大規模な米づくり」について大里支部会員の大家一雄様により演じられました。

ボランティア事業部会

赤い羽根共同募金事業

日時 令和7年10月1日(水)
(熊谷駅) 参加者 8人

市の合併20周年の記念式典があり、市社協の駅北口での募金活動が延期され、募金活動は唯一駅南口で弘済会が行いました。

(深谷駅) 参加者 9人

各奉仕団体の先陣として、深谷市社協職員と駅入り口にそれぞれ分かれて募金活動を行いました。小島進深谷市長とともに笑顔で呼びかけ、協力者に赤い羽根と共に「ふっちゃん」の缶バッチを渡しました。



深谷駅2階にて



熊谷駅南口にて

熊谷スポーツ文化公園における花壇植栽管理

長年、公園

東端のジョギングコース添いの花壇に夏花、冬花を植付け、年間を通して除草等の管理を続けてきました。春には桜とネモフィラ、夏はヒマワリ、秋は紅葉とコラボして、写真映えるする公園一の見どころを作っています。



植栽管理のみなさん

特別養護老人施設「彩華園」での包布交換活動

11月13日(木)にご家族1人に加えた16人が参加して、黄色、白、パンダ咲の3種類のビオラ苗を植えました。静かな暖かい朝で、丁寧な作業も1時間ほどできれいな花壇に仕上がりました。

彩華園でのボランティア活動の起源は、職員課がボランティア活動を県職員へ普及拡大する狙いで、彩華園の前身の埼玉県立特別養護老人ホーム緑寿園で行ったのが始まりで、現在まで30年近くが経過しました。ボランティアメンバーの高齢化と新規の加入者が見

込めないという状況です。

このようなことからボランティア活動の大切さは重々承知してはいますが、この活動からの撤退の方

生涯学習部会

野菜講習会(春・秋)

日時 令和7年8月7日(木)
場所 大里農林振興センター
参加者 19人

今回は、会員の阿左美勲様を講師として家庭菜園向けの講習会を開催しました。

土づくりや土壌調整、苦土石灰と肥料、連作障害、秋・春に植え付ける野菜など多種にわたる配布された資料により講義されました。

また、サツマイモ、リ

野菜講習会



野菜講習会



包布交換のみなさん

ンゴ、モモなどの長期保存の方法や安全な消毒液の造り方などの説明もありました。そのほか、春、秋の種まき植え付けの図解カードなど、実際の体験を通して、身近な内容の講義でした。

ゴルフ同好会

日時 令和7年9月18日(木)
会場 大麻生ゴルフ場
参加者 18人

気温35.4℃の猛暑が予想される中、「第31回大里支部ゴルフコンペ」が開催されました。平均年齢75歳の会員は、あがりのゲリラ雨のため中断になりましたが、元気にプレーを終了しました。優勝は、ハーフ40の阿左美さん、準優勝は中山さんでした。

プレー後の懇

親会は、ケーキとお茶を楽しみながら行われました。

会員数34人のゴルフ同好会は、健康維持と親睦の場として、年8回開催しています。

表彰式後の懇親会



表彰式後の懇親会



中山さん 阿左美さん

グランド・ゴルフ

開催日 令和7年10月15日(水)
会場 妻沼運動公園

多目的広場

参加者 13人

当日は天候に

も恵まれ、また
グランドの芝も
刈られた後だっ
たため、最良の
コンディションの中
での開催となり

ました。そのためか、参加者の半数にホールインワンが!!皆さん好成績で、和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。

楽しい歌声

開催日 令和7年11月13日(木)

場所 熊谷市緑化センター

参加者 19人

講師 福島房代「歌声ありえる」

主宰

昭和・平成の歌謡曲・唱歌・フォークソングなどを掲載した歌の本の中から「里の秋」「シクラメンのかほり」「いい日旅立ち」などの多くのリクエストを行い、その曲を先生のキーボードの演奏に合わせて歌いました。よく知っている曲も、うろ覚えの曲も初めのうちは遠慮がちな声でしたが、周囲の歌声につられ、だん



だん調子も出てきます。声も弾んであつという間に29曲を楽しく元気に歌うことができました。



楽しい歌声

北埼玉支部

施設見学会を開催

神奈川県鎌倉を訪ねる

期 日 令和6年11月12日

見学地 長谷寺、鎌倉大仏、鶴岡八幡宮

令和6年度の施設見学会は、神奈川県鎌倉市を訪ねました。参加者は、募集人員と同じ20人でした。

鎌倉市は、九条兼実の日記『玉葉』に「鎌倉城」とあるように、市街地全域が天然の城塞となっており、文治元年(1185年)に源頼朝が鎌倉幕府を開いたことは案内の通りです。

まず、長谷寺から拝観、入口で入場料を納め本殿へ、安置されている本尊の十一面観音像の偉大さ神々しさに圧倒され、しばし足を止め見入ってしまった。像高9.18mと

本邦最大の木造観音像だそうです。寺伝によると、奈良の長谷寺の開基であった徳道上人が養老5年(721年)に大和国の山中で見つけた楠の大木で2体の十一面観音像を造り、1体を奈良の長谷寺に、そして他の1体は海に流したところ、15年後に三浦半島に流れ着き、それを本尊として安置したのが鎌倉の長谷寺だそうです。

この仏像をよく見ると、右手に錫杖を持っているのに驚かされました。地藏菩薩と間違えたのかと疑問を感じさせられました。

長谷寺を拝観後、鎌倉大仏まで徒歩で移動、これもまた、入場料を払い入寺、高德院の本尊、国宝銅造阿弥陀如来坐像というそうで、残る史料によると、丹治久友、大野五郎右衛門の鑄工により、建長4年(1252年)から10年前後の歳月をかけて造立したとあります。

パンフレットには、台座を含めた総高は約13.4m、仏身高は約11.3m、重量約12.1トンと記されています。

かつて、与謝野晶子が「美男におわす」と詠んだように、優しい顔をした仏様です。

七里ヶ浜に近い「御代川」で昼食後、次は鶴岡八幡宮の参拝です。永承6年(1051年)に前九年

の役で戦勝を祈願した石清水八幡宮を、源頼義・義家親子により鎌倉の由比郷鶴岡(材木座)に鶴岡若宮として勧請し、八幡大菩薩を祀ったのが始まりと言われています。

治承4年(1180年)に兵を起した源頼朝は、鎌倉に入ると、「祖宗を崇めんがため」と小林郷松岡の地に、その社(若宮八幡社)を遷し、その後の建久2年(1191年)に、若宮八幡社の社殿が焼失したことから、裏山の中腹を切り開いて、本社を造営、改めて石清水八幡宮から神霊を迎え、鶴ヶ岡八幡宮としたとあります。

長い階段を登り、本殿に向い「二拝二拍手二拝」をして、今後の人生の安泰を祈り、拝礼後、八の字を八幡様の神鳩である鳩の姿で描いた「鳩八幡」の掲額に再び拝礼して下山しました。

丁度、日程が良かったのか、ともかく修学旅行生と外国人の多い鎌倉でした。

帰路のバスは、歩き疲れたのか、



■支部だより

皆さん、心地よい眠りに誘われていました。

久しぶりに満足感を感じた旅でした。

「ジャズを愉しむ会」を開催

期 日 令和6年12月10日

開催場所 ワークヒルズ羽生

令和6年度は、今までと異なったジャズを楽しむ会を開催しました。

出演者は、テナーサックスの石井純子氏、アルトサックスの兼杉義之氏、キーボードの大沢祥子氏、コンサートマスターでギター的美園生弘氏、ドラムの長谷川貞夫氏と多彩な顔触れでした。

出演の5



人は、かつては、有名歌手のコンサート等でバックの演奏をし、忙しい日々を送っていた人たちが、現在は一線を退き、時々、依頼される程度とすること。先日も打ち合わせに行ったり、たまたま五代夏子のコンサートに出演したばかりであったことから、往年時代の話に花が咲き、いろ

いろの歌手の裏話を聞かされました。

当初は、楽器の搬入及びセッティングにそれなりの時間が欲しい、それに暫くぶりに会うメンバーなので、お互いの音合せ等、練習時間が欲しいので、前日も会場を確保して欲しいと言われたのですが、残念ながらご要望に応えられないことを話すと、楽器搬入だけでもと要望され、会場責任者に交渉、なんとかロビーに置くことで了解を得ました。

当日のセッティングは会場開館時間から始め、それもセッティング補助員として3人が加わつてのセッティング、そして、演奏会開始の10時ギリギリでの完了でした。

音合わせもリハーサルも無しの本番突入、しかしながら、一線を退いたといえども、昔とった杵柄、いわゆるプロミュージシャン、演奏が始まると張り切り、会場の貸出時間を忘れるほどの熱を入れての演奏でした。

最初は演奏を聴き、そして皆で唄い、再び演奏を聴いて終了、アンコールと言いたところでしたが、会場貸出時間が終了となってしまいました。またの機会にと、演奏会はお開きとなりました。

たまにはジャズもいいものだ、と、楽

しい一時を過ごすことができました。

25人の出席をいただきました。

第14回会員間交流地域巡り

事業を開催

期 日 令和7年2月26日

見学場所

行田市郷土博物館、県環境科学国際センター、行田タワー、県行田浄水場、利根大堰

本部主催の会員間交流地域巡り事業は、6年度は北埼玉支部の担当となりました。

当日は21人の会員の参加を得ました。

「北埼玉地域再発見」のサブタイトルのもと、北埼玉支部管内の、忍城の歴史を展示する行田市郷土博物館、野外環境学習を行うためのビオトープ施設としての2.2haの生態園と環境科学に関する施設を体験型で展示した展示館「彩かんかん」を併設する埼玉県環境科学国際センター、映画『翔んで埼玉』で全国的に有名になった古代蓮の里古代蓮会館に付随する高さ59.5mの展望塔・行田タワー、埼玉県行田浄水場、そして、その行田浄水場の取水源となっている利根大堰を見学しました。

北埼玉地域を再発見できた小旅でした。

埼玉支部

埼玉地区は、地域としての面積は大きく、水田、畑と自然に恵まれた地区として、支部会員が一致団結して公益事業としての地域貢献活動や宅建試験など積極的に活動した1年でした。

河川美化活動

令和6年11月12日(火)快晴の中、松尾芭蕉も歩いた地域の中心都市春日部市を流れる大落古利根川右岸(春日部市粕壁東二丁目地先)に18人の会員が集合し、川面と柵の間に放置されたゴミ等を拾うなどの美化活動を実施しました。商家の土蔵などが立ち並び、歴史を感じさせる景観の中での美化活動という有意義な時間を過ごしました。なおゴミ袋、軍手、タオルを埼玉県越谷県土整備事務所から支給を受けました。



新春講演会・賀詞交歓会の集い

令和7年1月16日(木)春日部市内で令和7年賀詞交換の集いを開催しました。



第一部の新春講演会は21人が参加し、公益財団法人渋沢栄一記念財団の井上潤業務執行理事をお招きし「近代日本社会の創造者・渋沢栄一に学ぶ」と題した講演会を開きました。井上理事は永らく渋沢資料館(東京都北区王子)の館長を務められ、大河ドラマ「青天を衝け」の時代考証もされた渋沢栄一研究のオーソリティーです。

講演では、生い立ちから「論語算盤説」「道徳経済合一説」のもと500の企業、600の社会事業に携わった渋沢翁の足跡を辿りながら、社会全体を豊かにしようとした渋沢翁の人物像が熱く語られました。とりわけ渋沢翁の人間形成において生まれ育った血洗島で過ごした日々が極めて重要であったという話には、地元の偉人渋沢翁への親しみ、畏敬の念がより一層強まりました。旧渋沢邸(中の家)も修理が完成し、食事処で食事もできるよう

になったとの事です。

第2部の懇親会では会員20人が参加したほか、井上理事にも同席していただきました。講演内容に加え、井上理事が幹事をされている埼玉県渋沢栄一賞の話などで会話が弾み、楽しいひと時を過ごしました。

総会の開催

5月21日(水)午後2時から岩槻駅東口コミュニティセンターにおいて、当会顧問の埼玉県東部地域振興センター所長大熊誉隆様を来賓に迎え、総会を開催しました。



総会では「令和6年度事業報告及び収支決算について」「令和7年度事業計画及び収支予算について」「宅地建物取引士資格試験への取組の説明」があり、いずれも提案通り承認されました。

赤い羽根街頭募金活動

今年は運動期間初日の10月1日(水)早朝の7時から、春日部市長も参加し、若い方々を始め多くの方に関心を持ってもらい、募金の協力をいた

だきました。

ご協力をいただいた募金は、即日社会福祉法人埼玉県共同募金会春日部支会に納入しました。



宅地建物取引士資格試験

埼玉県内では10月19日(日)に19会場で実施され、埼玉支部は804人の申込みがあった埼玉県民活動総合センターでの試験を担当しました。

18の試験室を使い、埼玉支部をはじめ32人の会員に参加協力をいただきました。天候にも恵まれ、滞りなく終了しました。

また埼玉県県民活動総合センター職員の皆様のご協力もいただきました。感謝いたします。

日帰りバス旅行

10月22日(水)本年は県内ではなく県外へとも考え待望の茨城県へのバス旅行を11人が参加して実施しました。

まず日本の三大稲荷神社のひとつである笠間稲荷神社に詣でました。ここも八溝山系が南へ下り、里山と平野が織りなす景色のすぐれた所に位置しております。有名な菊

祭りが始まる

時期で準備も進んでおりました。天気も良くすがすがしい気持ちで参詣しました。歴史的には65年に建立されたこの



ことで、代々の藩主から保護され敷地も拡大されてきたものです。関東地方最大の稲荷社として厚く崇敬され、城下町かつ門前町としても発展してきました。途中郊外には道の駅もあり、買い物客で行列もできております。また焼物では益子と共に有名です。

そのあと昼食は那珂湊おさかな市場でとりました。食事処としては、とても有名な所です。味もすばらしく、海を見ながらの食事を楽しめました。海産物の買い物もできました。

その後は、近くの「めんたいパーク大洗」に行きました。ここは、子供の遊べる施設も備えて買い物のできるテーマパークです。夕方は曇りがちの天気でしたが、楽しい一日を過ごすことができました。